



岩手県久慈地方の ヤマブドウ栽培の 現状と課題

地域特産物マイスター

岩手県洋野町大野

しもかわら しげお
下川原 重雄

プロフィール

- 昭和28年 岩手県九戸郡大野村
(現 洋野町大野)生まれ
- 昭和47年 千葉県の養豚場に勤務
- 昭和49年 就農、養豚経営
- 昭和59年 養豚経営にりんご2.1haを導入
その後養豚をやめ、山ぶどう、山菜、
野菜等の多品目・産直型経営を展開
- 平成16年 いわて地域特産物オンリーワン
大賞受賞
- 平成16年 岩手県農業農村指導士に認定

プロフィール

- 平成17年 久慈地方ヤマブドウ振興協議会
会長
- 平成19年 (株)下重農園設立、代表取締役就任
- 平成20年 岩手農林水産振興協議会長表彰
「意欲ある担い手賞(農業部門)」
- 平成20年 農林水産省「農業技術の匠」選定
- 平成24年 大野産直友の会会長に就任
- 平成25年 久慈地域産直連絡協議会長
- 平成25年 地域特産物マイスターに認定

経営概要

- 耕地

りんご180a、山ぶどう200a、その他果樹50a

林地山菜100a、山菜80a、野菜30a

マイタケ・ナメコ(産直用)

- 農用施設等

ビニールハウス(30坪)14棟

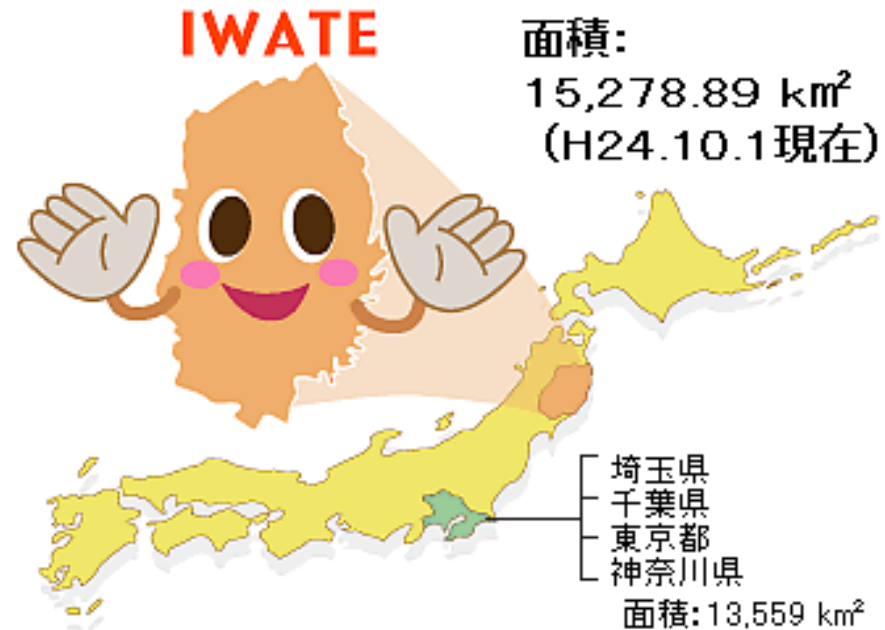
ジュース加工場

農産加工場

岩手県はココですよ！

- 本州の北東部に位置
- 東西約122km、南北約189km
- 都道府県別では北海道に次ぐ面積
- 東北初の世界文化遺産「平泉」

平泉



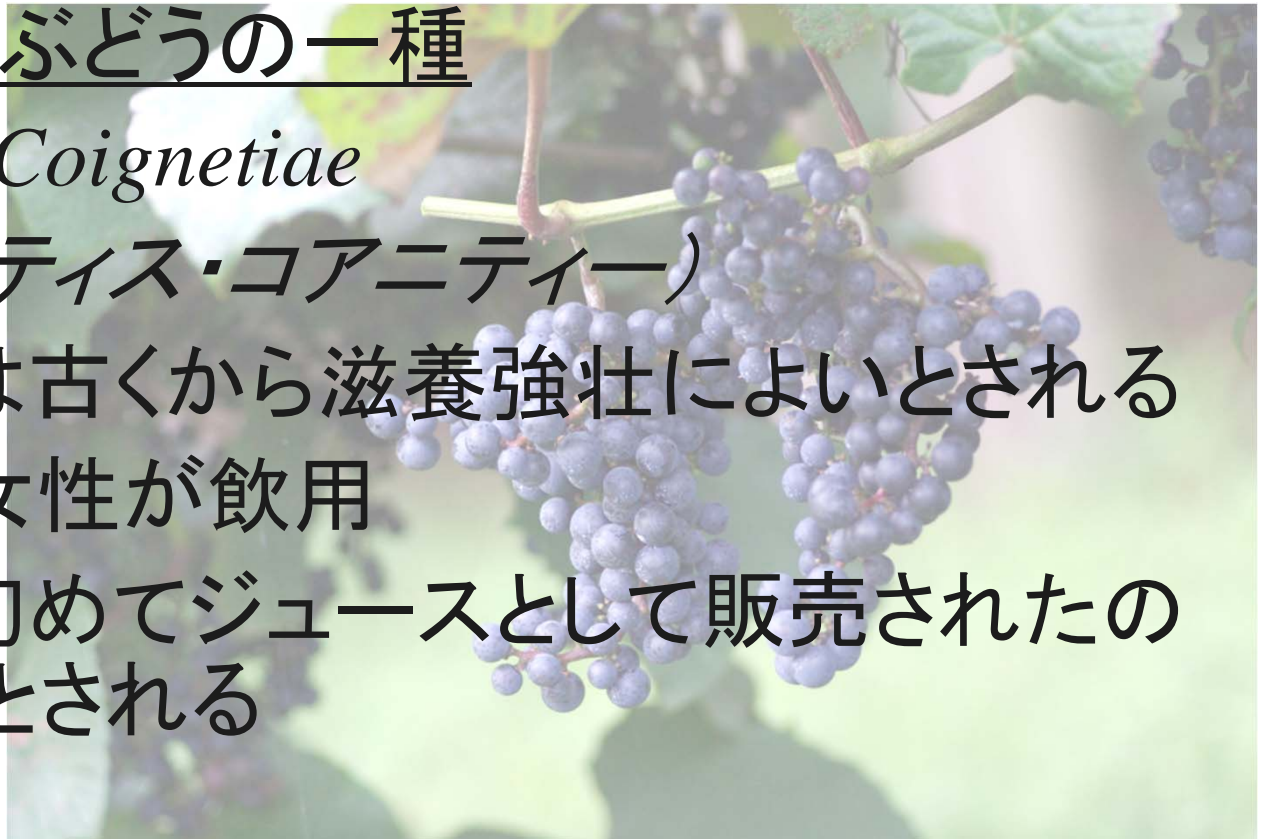
洋野町について

- 岩手県の北東部に位置
 - NHK「あまちゃん」で話題の北三陸に位置
- ※メインロケはお隣の久慈市
- アキちゃんの彼氏 「種市先輩」
は南部もぐり
南部もぐりといえば洋野町！



山ぶどうとは？

- 日本古来の野生ぶどう 雌雄異株、強樹勢
- 米国種群、ユーラシア種群ぶどうとは異なる
- 東アジア種群ぶどうの一種
- 学名は *Vitis Coignetiae*
(ヴィティス・コアニティー)
- 久慈地方では古くから滋養強壮によいとされる
- 産前産後の女性が飲用
- 久慈地方で初めてジュースとして販売されたのは昭和28年とされる



ヤマブドウの生育



・発芽
4～5月



・開花 雌樹
5～6月



・開花 雄樹
5～6月

ヤマブドウの生育



・結実
7～8月

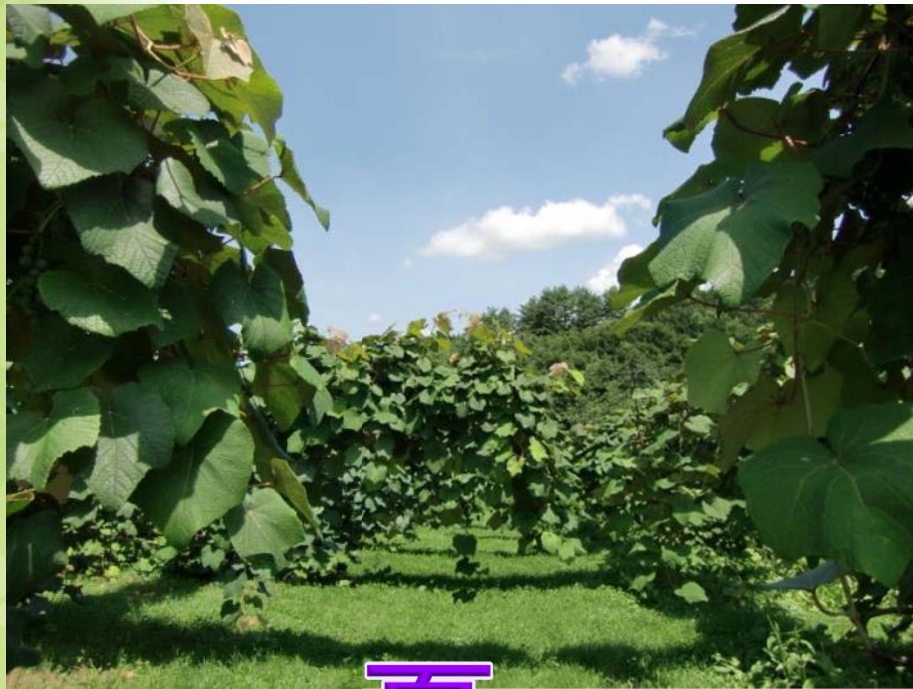


・成熟
8～9月



・収穫期
10月

ヤマブドウ風景



夏



秋



冬

ヤマブドウの栽培管理

- 芽かき 4月～
 - 人工授粉 5月
 - 摘心 5、8月
 - 摘房 6月～
 - 新梢管理 7月～
- 雄樹管理 7月～
 - 収穫 10月～
 - せん定 12月～
 - 薬剤散布 年6回程度

ヤマブドウの栽培管理



・芽かき



・摘心、新梢管理

ヤマブドウの栽培管理



・収穫作業



・調整作業

ヤマブドウの栽培管理



・せん定作業

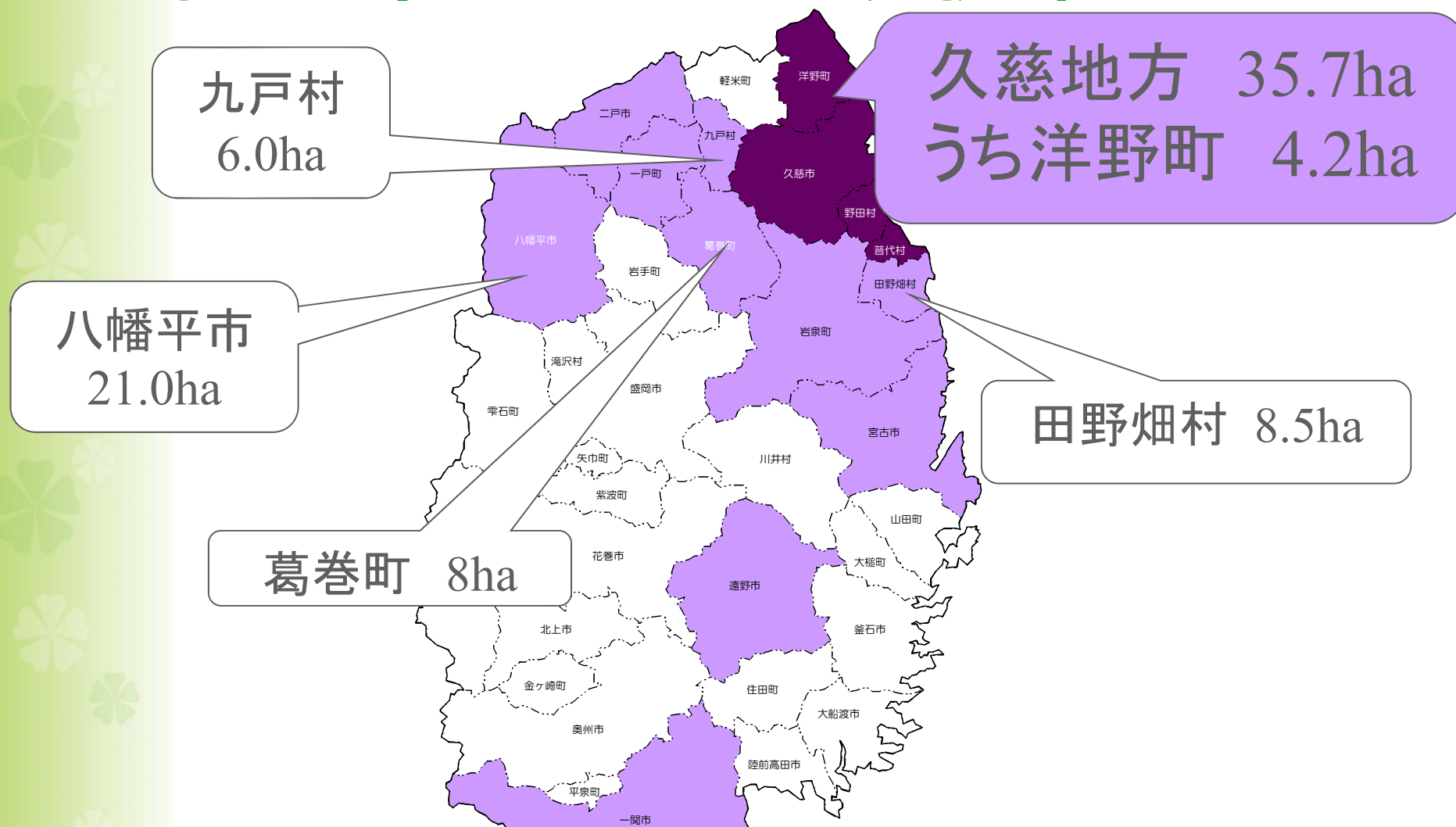
全国の山ぶどう栽培状況



全国:187ha 岩手県:107ha 久慈地方:36ha

※特産果樹生産動態等調査(H24)

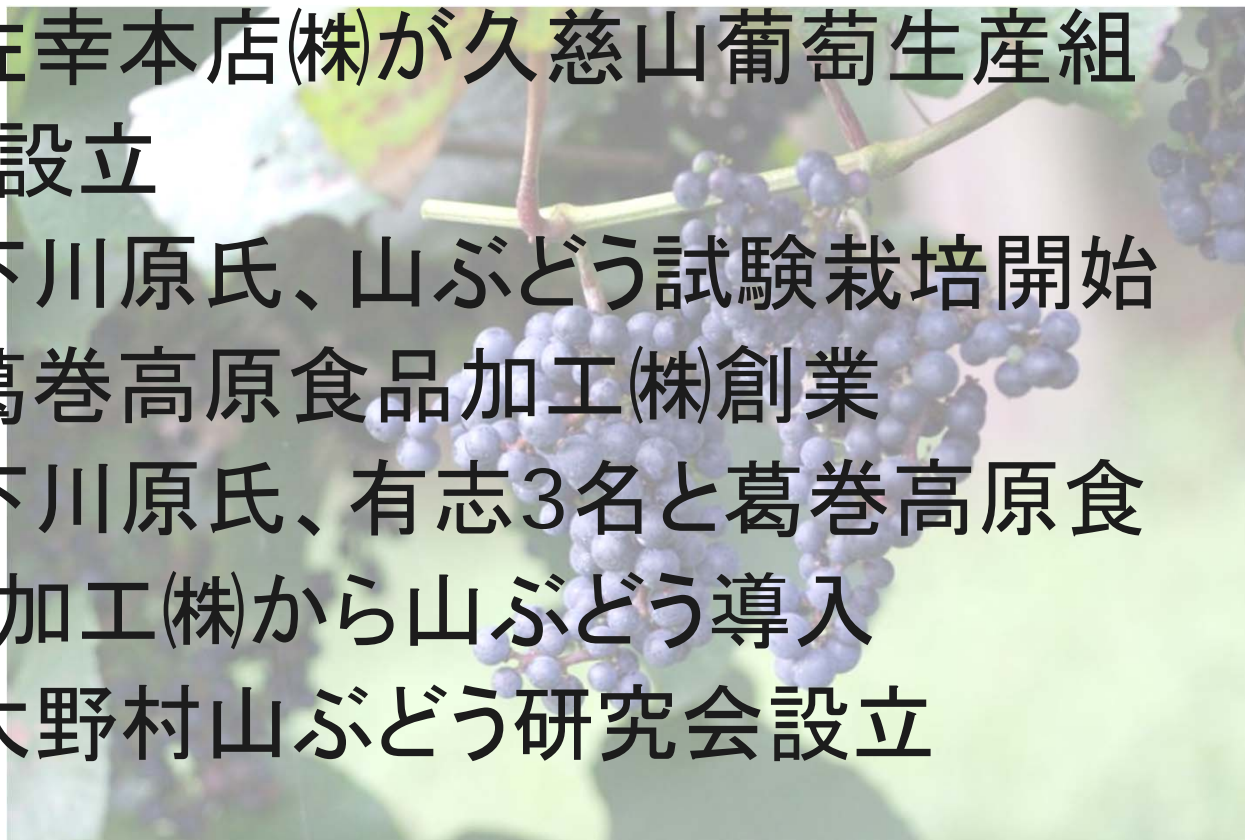
岩手県の山ぶどう栽培状況



※特産果樹生産動態等調査(H24)

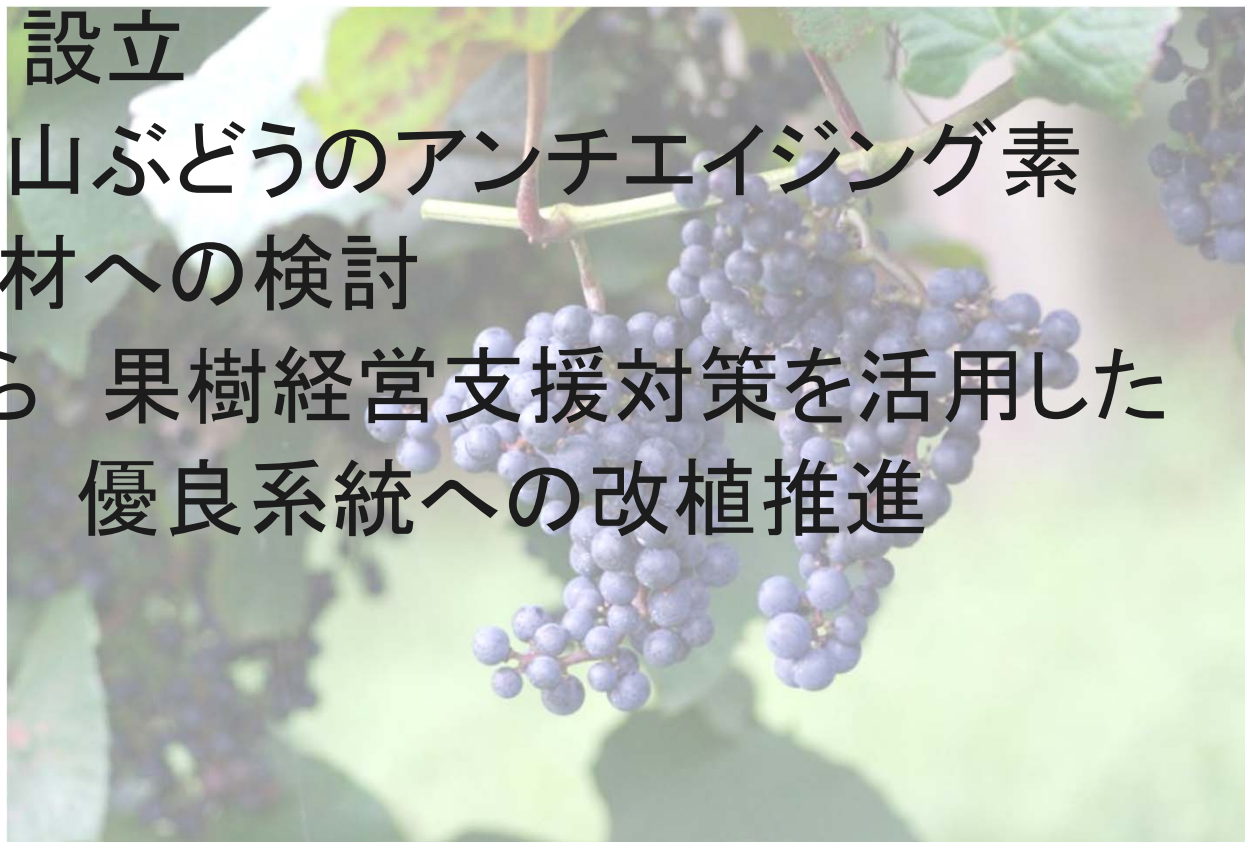
久慈地方の 山ぶどう栽培の経緯 ①

- 昭和28年 佐幸本店(株)が山採りの山ぶどうをジュースに加工し販売
- 昭和46年 佐幸本店(株)が久慈山葡萄生産組合設立
- 昭和55年 下川原氏、山ぶどう試験栽培開始
- 昭和61年 葛巻高原食品加工(株)創業
- 平成3年 下川原氏、有志3名と葛巻高原食品加工(株)から山ぶどう導入
- 平成7年 大野村山ぶどう研究会設立



久慈地方の 山ぶどう栽培の経緯 ②

- 平成11年以降 野田村でも栽培が拡大
- 平成17年 久慈地方ヤマブドウ振興協議会
設立
- 平成21年 山ぶどうのアンチエイジング素
~23年 材への検討
- 平成24年から 果樹経営支援対策を活用した
優良系統への改植推進



就農と経営の転換

- 実家では養豚を経営
- 昭和47年 高校卒業、千葉県の養豚場で勤務
- 昭和49年 就農
- 昭和59年 高森りんご生産組合(4名)
りんご2.1haを導入

昭和50年 「山ぶどう」との出会い



- 22才、農村青年クラブ活動で(株)佐幸本店の圃場を見学、「山ぶどう」栽培に興味を持つ。
- この頃から山ぶどうの試験栽培を開始

昭和59年 山ぶどう栽培を開始

- S59 りんご団地造成、栽培開始
- 同時に苗木づくりを開始
- 最初は、種をまいて増殖しようとした
→何千と播いたのに、優良系統が出てこなかった。病気にも非常に弱い
- 少しずつ山から枝を取ってきて増殖

平成3年～6年

本格的に山ぶどう栽培を開始

※当時は400円/kg前後

※葛巻高原食品加工(株)→「とにかく作ってくれ」

→希少価値が高い品目

- 平成3年 3名の仲間と山ぶどう栽培を開始

※葛巻高原食品加工(株)から200本苗木を導入

この頃は単収100kg程度

- 平成4～6年 苗木増殖、栽培面積を拡大
栽培希望者への呼びかけ
- せんだい講習会、先進地視察は毎年実施

栽培開始時の課題

- 当時は栽培技術が未確立、資料不足
- 醸造用ぶどうを参考に
- 栽培の前提条件や果実活用方策

【栽培】

晩霜を避ける必要 → 園地選定の重要性

隔年結果 → 安定生産困難、補完的品目

省力的品目 → 省力とはいえ管理が必要

低コスト栽培 → 棚よりも垣根栽培が有利？

病虫害防除

【経営】

収支試算

平成7年 大野村山ぶどう研究会設立

- 9名で研究会を設立→面積拡大、事業活用
- この頃から系統選抜を開始
- H7 県事業「中山間おもしろ農業展開事業」
栽培面積 0.6ha→1.3ha
- H8～10 村事業「いきいき農村づくり推進事業」
苗木の大量増殖→栽培面積拡大
山ぶどう100%ジュース
りんごミックスジュース開発
- H8 北いわて山ぶどう研究会

優良系統選抜

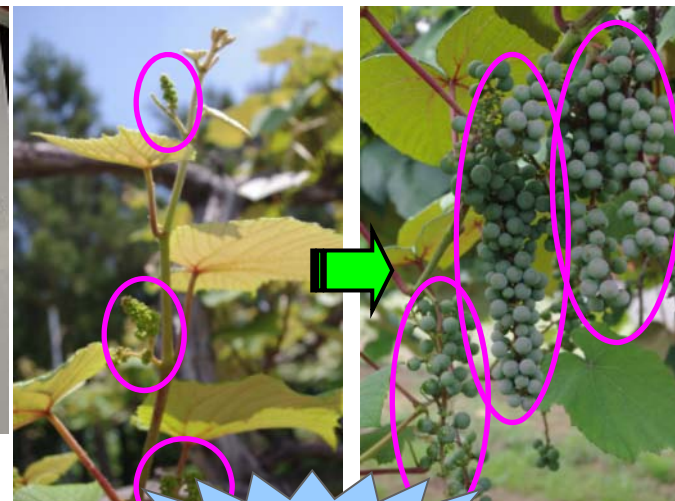
～より高品質で多収の系統を求めて～



果汁が濃い

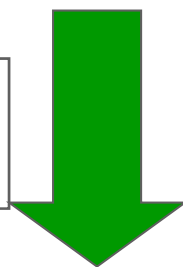


1房100g前後



花芽が3~4つ着く

これら3つを基準に数百種類ある中から選抜した



そして、「大野晩生系」を選抜した！！



大野式下垂仕立て 開発のきっかけ

この頃、野生の山ぶどうが木に絡みつき、てっぺんから垂れたところに山ぶどうが良くなっていることに気づく



霜の被害を受ける中で生み出した 「大野式下垂仕立方式」

霜の被害



枯れた花芽



収穫した果実

一般的な醸造用ぶどうの仕立て方



大野式下垂仕立方式



下段が霜の被害を受けている

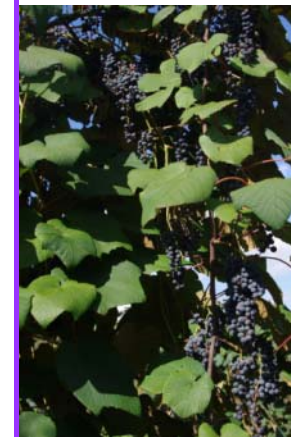


地面から1mごとに
1°C温度が上がる

主枝を高いところに置き、枝を
自然に下に垂らすようにした



霜の被害を回避 + 結実良好



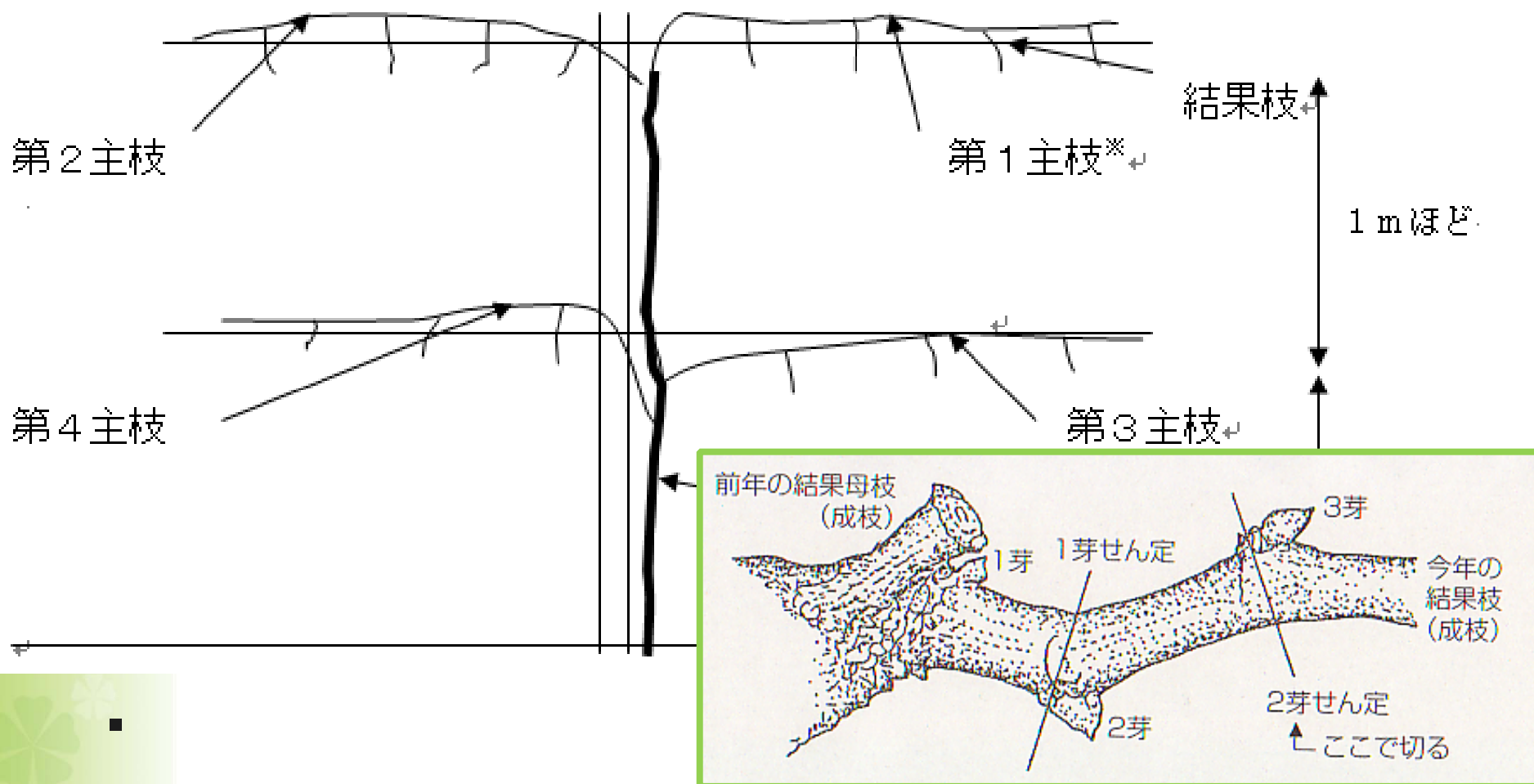
平成24～25年

「大野式下垂仕立て」の野田村への普及

- 野田村では優良系統への改植を推進中
- 「葛巻系」は収量性は高くないが、くずまきワインから一定量求められる
- それまで普及センターでは野田村の生産者にマニュアル化しやすい「短梢せん定」を指導
- 経験上短梢せん定では良い芽が着生する部位を剪除してしまう。
- 普及センターに大野式下垂仕立てを普及すべきとアドバイス

久慈地方の一般的なせん定 ＜短梢せん定＞

5 短梢剪定の方法（植栽4年目以降）



実践しているせん定方法

<長梢せん定(大野式下垂仕立て)>

6 長梢剪定(大野方式)の方法

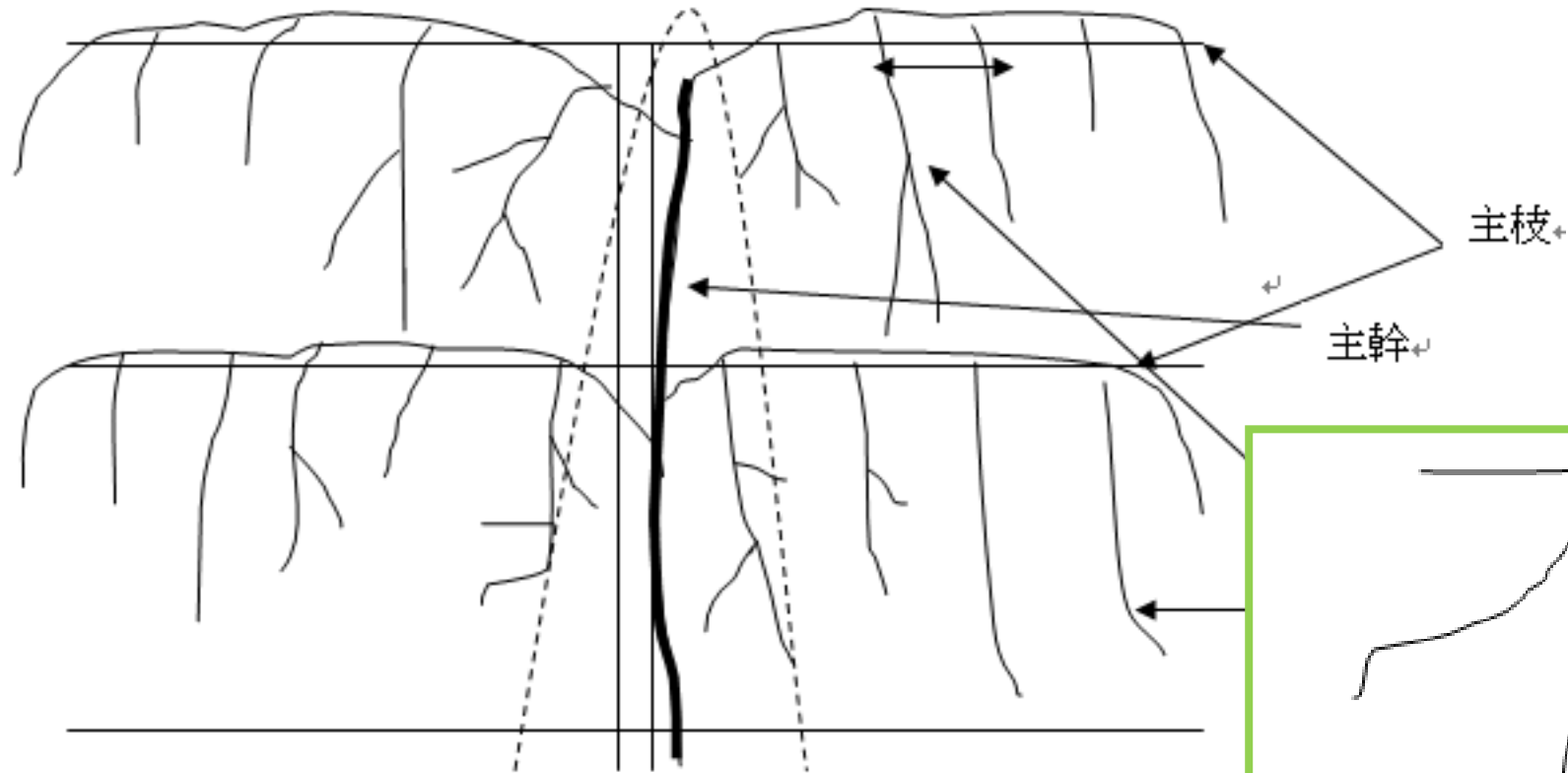


図 23 結果枝の間引き



山ぶどうの販売・
産地育成に向けた取組み

平成12年 おおの山ぶどうワイン開発

- くずまきワインに製造を委託
- 平成12年度「秋の未来・創造2,000年祭」で試飲会を開催
- 村内外に新たな特産品としてPR



平成12年頃 グリーンツーリズムへの取組

- 大野ふるさと公社で行っているグリーンツーリズム受入れ団体の会長に
- 積極的に消費者と交流



平成17年～ 久慈地方ヤマブドウ振興協議会 設立

情報発信強化！

- ・久慈管内の山ぶどう生産者が集まり、
情報交換や栽培技術の向上を目指す。

設立総会



各地区から、役員を選出



「新特産シリーズヤマブドウ」(農文協刊)永田勝也氏による講演



剪定講習会 講師



現地指導

久慈地方ヤマブドウ 振興協議会



- 平成26年8月27日 視察研修(青森県五戸地域)

販路拡大に向けた取組み

販路拡大に向けた実需者とのマッチング



久慈市(有)沢菊
山ぶどうチーズケーキ



スポンジの上にクリーム
状のチーズケーキが
のっています

販路拡大に向けた取組み

ヤマブドウ産業化研究会の成果

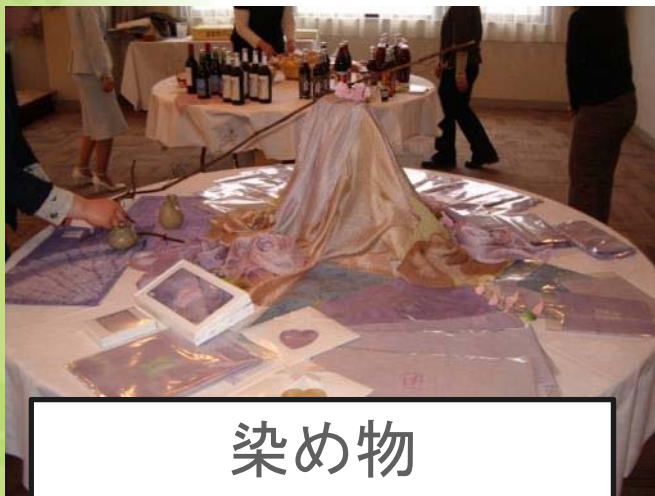


レストランメニュー

和菓子



洋菓子



染め物

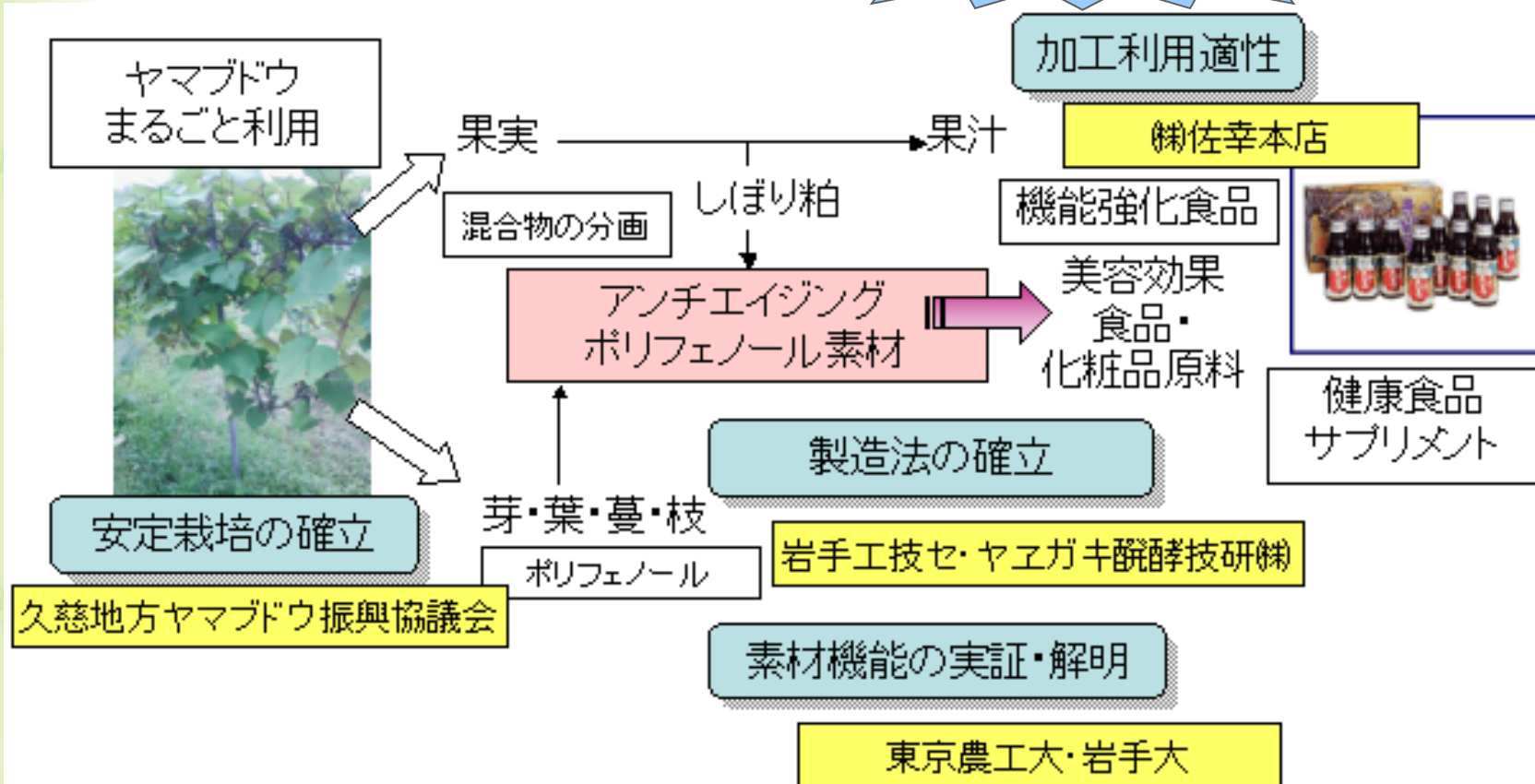


焼き物

平成21年～23年

山ぶどうのまるごと利用に向けた研究

健康食品にしちゃえ！



平成21年～23年 山ぶどうのまるごと利用に向けた 研究

新梢



果実



せん定枝



普及センターと調査検討

平成24年～

イオンリテール(株)との連携①

- 平成20年度
出荷先の総合農舎山形村→イオンに商品出荷
- 平成24年度
総合農舎山形村とイオンリテール(株)との販売に係る意見交換
- ※フードアルチザン(食の匠)の取り組みとして、
「山ぶどう」を取り上げたいとの話が出た
- ヤマブドウ振興協議会会長として、イオンと連携し「太陽の山ぶどう倶楽部」設立

平成24年～ イオンリテール(株)との連携②

太陽の山ぶどう倶楽部の構成



- ・商品開発
- ・既存商品のブラッシュアップ
- ・全国のイオンで販売

平成24年～

イオンリテール(株)との連携③

協定書調印式(H24.11)




平成24年～

イオンリテール(株)との連携④

久慈地域の山ぶどうと地域特産物を味わう会





お・わ・り・に

今後の課題

- ・ 安定した生産
- ・ 産地の継続